

第11回 (9/14号)

水稻病虫害発生予察の結果について

①生育状況

生育状況は概ね平年並みの生育で、順調に進んでいます。葦山地区は籾の中身が固まり始める乳熟期～糊熟期、江間と白山堂地区は糊熟期から更に進んだ固熟期にかかっています。その他平坦地は固熟期でした。山間地では、収穫が済んだ圃場も多く見られるようになっていました。

山間地の調査は本日で終了致します。

②病虫害状況

本日の調査は途中で雨が強くなった為、全ての圃場で調査は出来ていません。途中までの調査では、どの圃場でもウンカ類やヨコバイ類の害虫の発生はほとんど確認出来ませんでした。

調査の中でニカメイガによる被害と稲こうじ病による穂が見られました。どちらも防除適期は8月の幼穂形成の頃になりますので、被害が多い圃場は次年度の対策を検討して下さい。



↑稲こうじ病

特徴

出穂期以降に籾周辺に黒や黄色のカビの塊が見られる。

コンバインで菌塊が飛ばされる事が多い。
着色米の発生要因

要因

維管束を通じて感染
7～8月の多雨や多肥で発生が助長される。



↑ニカメイガによる食害

特徴

出穂期に白い穂が見られ、簡単に引き抜ける。

要因

ニカメイガ成虫が8月上旬に産卵
幼虫が株元から食入し発生する。

※商品の値段は全て税込表示です。

○トレボン粉剤DL 3～4kg/10a 1,200円/1袋 (3kg)

時期：収穫7日前まで

備考：ウンカ類、ヨコバイ類、イナゴ類、カメムシ類

問い合わせ：葦山営農センター 西島・田中 055-949-0055

※FM伊豆の国でも朝・昼放送を開始しました。